

言語・文字の転回からみた『仏教』流伝

2013年12月21日(土) 13:00~18:00

早稲田大学 小野記念講堂

開催趣旨

本シンポジウムは、科学研究費基盤研究(A)「文明移動としての『仏教』からみた東アジアの差異と共生の研究」にもとづくものです。アジアの多様な言語や文字をもとにして、あるいは、それらの言語や文字の変換とその影響を通じて、「仏教」がどのようにアジアで文明化していったのか。そして、「仏教」がいかにダイナミックに移動し、グローバルな特徴をもつに至ったのかを検討してみたいと考えています。

プログラム

総合司会 森 由利亚 (早稲田大学)

13:00~13:10 趣旨説明 新川 登亀男 (早稲田大学)

13:10~14:10 《報告1》 朱 慶之 (香港教育学院・北京大学)
インド仏典の翻訳にもとづく中国語の変容
— 中国語人称代詞の複数標記出現を例として —

14:10~14:50 《報告2》 吉田 豊 (京都大学)
イラン語圏における仏教受容
— ソグド語圏を中心に —

..... 休憩

15:00~15:40 《報告3》 阿部 龍一 (ハーバード大学)
なぜ玄奘訳なのか
— 『般若心経』の東漸をめぐる旧訳と新訳 —

15:40~16:20 《報告4》 ジョン・ウィットマン (国立国語研究所)
東北アジア言語の仏典訓読とラテン語教典の読法

16:20~17:00 《報告5》 河野 貴美子 (早稲田大学)
古代日本の仏教説話と内典・外典
— 『日本霊異記』を中心に —

..... 休憩

17:10~18:00 総合討論

参加無料・事前予約不要

使用言語: 日本語 (逐次通訳)

主催: 科研基盤(A)「文明移動としての『仏教』からみた東アジアの差異と共生の研究」(代表: 新川登亀男)

共催: 早稲田大学重点領域研究機構 東アジア「仏教」文明研究所

後援: 早稲田大学総合人文科学研究センター

お問い合わせ: 科研基盤(A)「文明移動としての『仏教』からみた東アジアの差異と共生の研究」事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1 早稲田大学戸山キャンパス 36号館 8階アジア地域文化学コース室内
asiab@list.waseda.jp